

平成 27 年度は、主に 2 号墳の墳形や規模を確認するためのトレンチ調査(T4~T6)を実施し、T2を拡張して調査した結果、T2とT4にまたがる溝の存在を確認しました。

1号墳(前方後円墳)

全長(推定)29m、後円部径(推定)17m、後円部高(推定)2.4m、前方部長(推定)12m。後円部、前方部とも全体的に削平を受けています。後円部墳頂は、盗掘を受けており、正確な埋葬施設の構造は不明ですが、周辺に海石(石灰質細粒砂岩)や板石(安山岩:須曾石)が散在するため、石材を使用した埋葬施設の可能性があります。T1・2 の調査で後円部の下半部は削り出し、旧表土面より上は盛土工で築造していることが分かりました。西側は谷地形を利用して墳丘を大きく見せる意図がうかがえます。T2 の後円部墳頂からガラス玉 1 点と鉄刀の茎 1 点、長頸鏃 4 点程度出土しました。くびれ部西から須恵器の破片が集中して出土しており、高木森古墳のような墓前祭祀の可能性が考えられます。出土遺物から 6 世紀前半頃の築造と推定されます。

2号墳(円墳)

直径 30m(推定)、墳丘高 5.6mを測る円墳。墳丘の東・西側は削平されています。T4 の調査で墳頂部は径約 9mの平坦面になっており、保存状況は良好ですが、埋葬施設の構造は不明です。標高約 21m辺りで平坦面を作りだし、墳丘の中腹にある旧表土面から下を地山削り出し、上を盛土で築造していると推定できます。1号墳と2号墳の間で確認された溝(幅6m、深さ0.8m)は、T5・6の状況から2号墳に付属する周溝の可能性が高く、地形の状況から西側のみに存在すると思われる。時期を特定する遺物は出土していません。

3号墳(円墳)

1号墳から 20m南側の尾根先端部にある小型円墳。復元径約 11m、高さは 0.8m。出土遺物はありません。4号墳は未調査。

まとめ

佐味今田谷内古墳群の西には、中期から後期を代表する「矢田古墳群」が存在し、6世紀初頭の盟主墳である矢田高木森古墳(前方後円墳、全長 58m)や先行して矢田丸山古墳(円墳、径約 42m、高さ 7.5m、円筒埴輪)が築造されています。6世紀後半には崎山半島で三室まどがけ古墳群(1~3号、横穴式石室)が築造されます。矢田高木森古墳や三室まどがけ古墳群では、海石が石室の石材として、板石が石室の床石として使用されており、今回の調査でも埋葬施設は未確認ですが、同じ石材が採集できることから類似した埋葬施設が推測できます。これは七尾南湾東部域の同一勢力圏内と想定できることから、佐味今田谷内古墳群は、地理的にこれらの中間地域にあり、また時代的にもこれらを繋ぐ被葬者を想定できるかもしれません。

今回の調査を通じて所有者が保存会を設立し、古墳公園としての活用策が検討されています。また、現地説明会では住民が地元の歴史を再発見する機会となり、今後はふるさと学習の教材としての活用も考えています。古墳は山城と同じく、ありのままでも存在感があり、地域の歴史を語るシンボルでもありますので、今後も身近な文化財の周知と活用を図っていきたく思います。